

ADVISER

キャリアコンサルタント
村本麗子氏



ビジネスマンスクール東京・札幌の上席講師として年200回以上の授業に登場。公共団体や企業への研修の提供や、企業、経営者、起業家へのコンサルティングや講演など、活動は多岐にわたる。脳科学理論をベースとしたコーチングでは、北海道における第一人者。株式会社ヒト・ラボ 代表取締役。

キャリアアドバイザーに聞いた!



転職サリセス

への道

ROAD TO "TENSYOKU SUCCESS"

vol.30

業界or職種の「軸」をズラした転職を。

転職を考える時にはつい「同業種」「同職種」を選びがち。ですが、同じ業界の同じ職種への転職では、大きな成長は望めません。ご自身の可能性を広げるためにも、どちらかの軸をズラした転職を考えてみませんか。

一つの仕事を続けることで生じるリスクに注目を!

仕事の多くは、ゼロからスタートし、しばらくの間は大きく成長をしていけるものです。これは仕事だけではなく、趣味や習い事においても同じこと。始めたばかりのころはグングン上達し伸び盛り。ただ、ある程度進むと伸び率は次第に小さくなっていきます。大きく成長し続けるためには、時には別の世界に出ることも必要になるのです。

また、同業界・同職種で長く仕事を続けると視野が狭くなることも。例えば「これは自分にしかできない」と思っていたスキルが、いつの間にか誰でも可能なスキルになっていた、ということが起こりがちです。これを「コモディティ化(一般化)」と言います。多くの人が得ているスキルでは、転職時の強い武器にはなりません。ほかの人に取って代わられることもあれば、将来的にAIやシステムがその仕事をする可能性だってあるかもしれません。

年収大幅アップを望むなら外の世界に目を向ける必要も。

さらに言えば、同じ業界の同じ職種に転職した場合、大きな年収アップを望むのは難しいのが一般的。その業種・職種がどうしてもやり続けたいことであれば、もちろんそれでも構いません。ですが、成長や年収アップという観点で捉えると、同じ世界だけにとどまるのはリスクを高める行為だと言えるのではないだろうか。

転職を通じ多様性のある知識とスキルを身に付けて。

そこでおすすめたのが、業種、職種のどちらかを変える「異業種・同職種」または「同業種・異職種」への転職。例えば現在、不動産業界で営業職に就いている人が、不動産業の事務職やシステム関連職に移る。あるいは、建設業の営業職に移るといったイメージです。初めの例では、不動産の知識はすでにあるため、

新しい職種のスキルを得ることに注力できますし、後の例では、営業のスキルがすでにあるので、そのスキルを生かしつつ新しい業界知識を身に付けていきます。

このような転職を通じ、無理なく幅広い知識を身に付けたり、スキルを多様化することができ、ご自身の可能性を更に広げられることでしょう。